

「地図豆」の地図を広げて街歩き

#### 49-1 (46+47) 銀座・新橋・田町 人知れぬ裏道たどり (距離約 2.5km+6.5km)

プラタモリでも紹介されたことのある銀座の裏路地から薄暗い地下道、そして提灯殺し?の地下道から不思議な凹地を経てゆうれい地蔵までひたすら人知れぬ裏道をたどる。

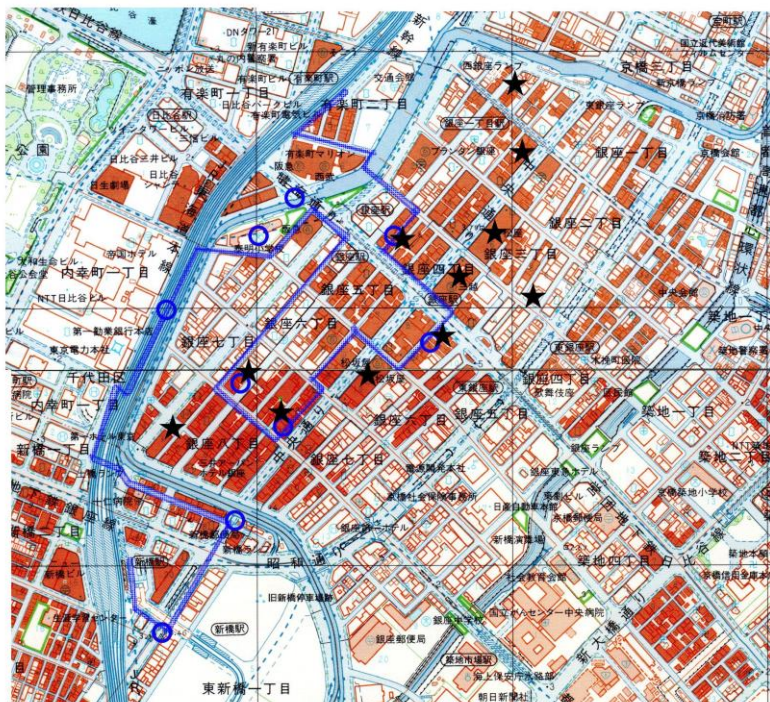


銀座の路地

#### 【銀座・新橋コース 道順】

JR 有楽町駅→路地・宝童稻荷神社 (銀座 4-3-14) →路地・あづま稻荷神社 (銀座 5-9)  
→路地・豊岩稻荷神社 (銀座 7-8) →成功稻荷神社 (銀座 7-5 資生堂本社 見学不可) →  
→数寄屋橋の碑→泰明小学校→山下架道橋先高架下路地→銀座の柳の碑→新橋駅 (電車で  
田町へ)

### ルートマップ（銀座・新橋コース）



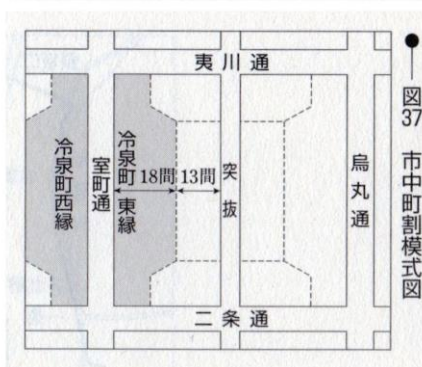
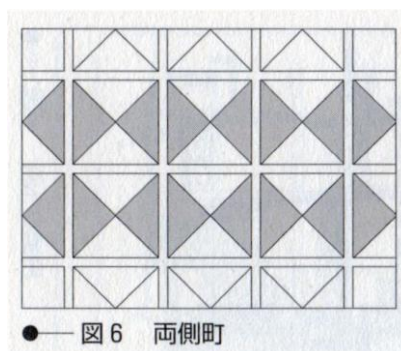
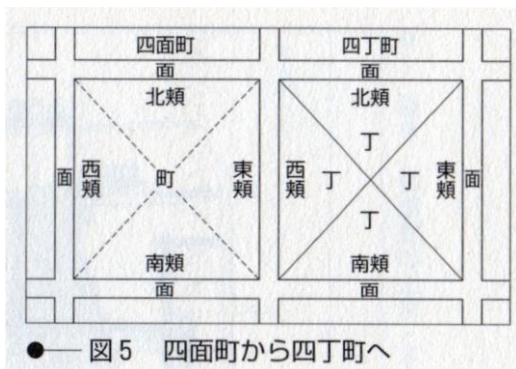
### ルートマップ（田町コース）





## 地図豆知識：銀座小路と街の成り立ち

平安京などの、碁盤の目状の街づくりである条坊制では、その街区内の地割は、南北の小路を通して、各宅地は東西からアプローチした（二面町：8世紀以降）。次の段階では、街区四周に開く形状へと変化する（四面町：12世紀後半）。その後、それぞれの面が地域的まとまりを持つ「四丁町」（14世紀末）を経て、道路を挟んだ両側が一体化した地縁共同体の「両側町」（15世紀中）となる



その後、豊臣秀吉の時代になると（16世紀）京都の市街地に短冊状の町割りをほどこした。条坊制地割の街区の裏には未利用地があったので、この中央南北に小路（突抜）を通したのだ。

大阪の町人地船場もまた秀吉の手によって町割りが行われた。辺りは淀川が作る低湿地であったから、水系を整理して埋土による宅地造成をした。その上で、方形の街区とし、背割り下水を界とした両側町（京都とは異なる）を構成した。

そして、徳川家康が江戸へ入府し、16世紀末町割りなどに着手する。沽券図などから推測すると、当初のそれは秀吉の大阪船場の町割りをベースとし、中央に会所を設ける工夫があった。（1間＝約2m）（主に『町家と町並み』伊藤毅から）

豊岩稻荷神社やあづま稻荷神社へと続く小路は、まさに船場町割り図にあった背割り下水が変化したものと思われる。



「五千分の一東京」と1/10,000「京都」の地形図に見える街路と路地

### 【街歩き解説】

- ・ **宝童稲荷神社**：健やかな子どもの成育に御利益があると伝えられる子育て稲荷さん。
- ・ **あづま稲荷神社**：伏見稲荷より分霊してお祀した。火防、盗難よけ。
- ・ **成功稲荷神社**（資生堂本社 見学不可）：満金龍神成功稲荷を祀り、商売繁盛、事業成功にご利益があると云。
- ・ **路地・豊岩稲荷神社**：うーんと珍しい路地を抜けて、縁結び、火防の神。女性の参拝が多いといわれる豊岩稲荷神社へ向かう。



ビルの中の小路と豊岩稲荷

- ・ **泰明小学校**：著名人が卒業生に名を連ねる泰明小学校は、近代化遺産に指定され、鉄筋コンクリートの壁にはいい感じで蔦が延びる。
- ・ **山下架道橋先高架下路地**：高架下を南北に新橋駅まで地下通路が続く。小さな飲食店がいくつかあるほかは、JR 関連の会社事務所が多く連なる不思議な空間である。





山下架道橋先高架下入り口と路地

- ・ **銀座の柳の碑**：銀座煉瓦街の発足当初植えられた並木は一旦撤去。昔恋しい銀座の柳の『東京行進曲』ののち、昭和6年に柳並木として復活。しかし、東京大空襲で焼失、その後銀座の柳二世が再復活したという。

**少しだけ地形観察**：かつて銀座は、日比谷入り江を挟んで半島のような小さな高まりだった。この入り江は、江戸期に入って埋め立てたもの。最新のデジタル標高地形図を見ればそのようすが明らかになる。

タモリのように、現地で微高地の高まりを見つけられるでしょうか。

それは無理でも、もっと大きな高まりなら地名からならかんたんに発見できる。上野、白山、目白台、代官山、白金台、高輪台などは高台、鶯谷、谷中、茗荷谷、雑司ヶ谷、四谷、市ヶ谷、渋谷などは文字どおり谷である。そして、神田、早稲田、五反田、三田、田町などは田にかかわる地名、日本橋、京橋、柳橋などは川に近い地名だから、低い土地や軟弱な地盤が予想される。



デジタル標高地形図とその昔の銀座

### 【(プラス) 田町コース 道順】

(電車で新橋駅から移動でもよい) JR 田町駅→1等水準点 No8→1等水準点 No15-005→札の辻橋→新芝運河→低いトンネル「提灯殺しのガード」→高輪大木戸の几号水準点→泉岳

寺→二本榎・高輪消防署出張所→桂坂→高輪海岸の石垣石（高輪二丁目交差点）・高輪神社→桂坂→洞坂の窪地→東禅寺（イギリス大使館跡）→高輪公園・1等水準点 No9→高輪プリンスホテル→光福寺（ゆうれい地蔵）→般若苑と畠山記念館本館→池田山（公園）→都営三田線・東京メトロ白金台駅

・「提灯殺しのガード」：正式名称は高輪橋架道橋という。その高さは低いところで1.5m。タクシーの屋根の上にある（提灯状の）広告塔が、ぶつかって壊れてしまうので、これを少し切断したタクシー会社もあって、この車を提灯殺しという。ここ以外は訪ねたことはないが、都内にはこうしたタクシーの車高ギリギリの名所？が4箇所あるようで、いずれもガード下である。

1. 大田区中央2丁目ガード、 2. 高輪橋架道橋、 3. 足立区柳原東武線ガード、 4. 江東区北砂越中島貨物線ガード



「提灯殺しのガード」

・高輪大木戸：宝永7年（1710年）に、東海道から江戸府内の入り口として、また、南の出入り口として設けられた大木戸の跡である。

街道の両側に築かれた幅約20メートルの土塁の間に木戸を設け、明け方六ツに開き、暮れ六ツに綴じて、治安の維持と交通規制の役割を果たしたという。現在の木戸跡には両脇に長さ五間（9メートル）、幅四間（7.2メートル）、高さ一丈（10尺=3メートル）の石垣が残る。この間に柵と門が設けられていた。

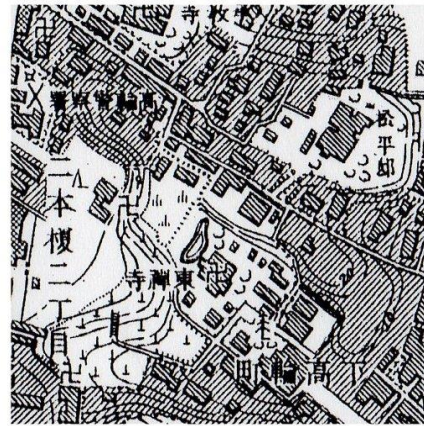
伊能忠敬は、全国測量を西に進めるにあたって基点とした。確かめるのは、やや危険であるが、車道に面して明治初期に設置された（刻まれた）几号水準点がある。



高輪大木戸跡と几号水準点

#### ・洞坂の窪地

東禅寺裏には、どこに向かうにも坂を上らなければならない窪地になった宅地があるが、住まいする人に支障があるので詳細は書かない。



S63 修正 1/10,000 地形図「渋谷」・M42 1/20,000 地形図「品川」

・東禅寺：安政5年（1858）7月に日米通商条約が、続いて英国とも締結され、翌6年6月には、東禅寺にわが国最初のイギリス公使館が置かれ、イギリス初代公使オールコックらが駐在した。東禅寺では、文久元年（1861）5月水戸浪士の襲撃事件、翌年に奥書院と玄関も護衛役日本人と、イギリス人水平が襲撃される事件があった。その東禅寺は、明治6年（1873）ごろまで公使館として使用された。今も奥書院と玄関が当時のようすを残していて、2010年2月国の史跡に指定されている。





幕末の東禅寺（「F・ベアト日本歴史写真集」より）・残された銃弾跡

・高輪（という地名）：古書には「土地往還の縄手道して、すこぶる高き所になれば・・・」とあって、高台にあるまっすぐな道のことだという。しかし、地名の昔といっても、文字のない時代から、文字を当て、条里のころに整理され、再び自然にもどり・・・、と平坦ではない。その昔、地形をして言われたころの、（タカ）ハナワすなわち、土の高い部分（ハナワ：塙）、土に低い部分（アクツ：坏）を源とするのだろう（柳田国男「地名の研究」）。

\*\*\*\* オフィス 地図豆 yamaoka mitsuharu \*\*\*\*